

2022年度 エコアクション22

環境経営レポート

(レポート対象期間:2022年4月~2023年3月)

~ マイナス・エミッション 2022 ~



株式会社グリーンループ

発行日 2023年 7月25日



目次

1. 環境経営方針	1
2. 事業概要	2
3. エコアクション21の適用範囲	4
4. 環境経営システムの運営体制	5
5. 環境経営目標とその実績・評価 5. 1 生産活動における環境負荷の概要	6 7 8 10
6. 環境関連法規の遵守状況	11
7. 代表者による総合評価と見直し	12
8. 次年度の取組内容	13



1. 環境経営方針

【経営理念】

『安心と信頼ある会社づくり』 『自律した人財の育成』 『リサイクルを通じた社会貢献』

私たち、株式会社グリーンループは、プラスチックのマテリアルリサイクル事業を通じて、 循環型社会の構築に貢献します。

また、環境マネジメント活動を推進し、より一層の環境配慮型事業を目指します。

行動指針

環境影響を低減するために次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

当社の活動による環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。 関連する環境法規並びに規制基準を遵守し、地域社会との調和に努めます。

当社の活動による環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして

- ① 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減
- ② 用水使用量の削減などによる省資源の推進
- ③ 一般廃棄物搬出量の把握、及び削減
- ④ リサイクル率向上等による、産業廃棄物搬出量の削減
- ⑤ 環境保全体制の確立

取組みます。

⑥ 地域の環境啓蒙活動への貢献

全社員に対してこの環境経営方針の周知を図るとともに、環境教育、人材育成を積極的かつ継続的に行い、環境活動の定着、向上に努力します。

最終改定日:2022年7月1日 制定日:2009年3月10日



株式会社グリーンループ 代表取締役 小林 隆明

1

2. 事業概要

2. 1 事業基礎情報

会社概要

株式会社グリーンループ 社 名 代表者 代表取締役 小林 隆明

〒439-0023 静岡県菊川市三沢1500番地177 所在地

TEL 0537-35-3257 FAX 0537-35-3244 (本社工場以外に工場、事業所はございません)

2006年5月29日 設立日 9,000万円

資本金 1,457,977 千円 (2022年度) 売上高

社員数

51 人 (2023年3月末時点) ※パート社員・派遣社員を含み、監査役・社外取締役を含まない。

監査役・社外取締役は当エコアクション21の管理外である。 一般廃棄物処理施設設置許可 環廃第47号の6

許認可

產業廃棄物処理施設設置許可 静岡県 第 100110294 号 産業廃棄物処分業許可 静岡県 第 02221215343 号

6, 198 m2 延床面積 7, 172 m2 敷地面積

EA21事務局

環境管理責任者 管理部課長補佐 夏目 佳代子

(連絡先 kayoko. natsume@veolia.com)

環境管理担当者 管理部課長補佐 夏目 佳代子

(連絡先 kayoko.natsume@veolia.com)

事業活動推移

注) 当社の事業は容器包装リサイクル法に基づくリサイクル業です。 産業廃棄物処理業についての今年度の実績はありません。

■再商品化受託量



注1) 市町村から受け取った、容器包装プラスチックの量を指す。

■再商品化製品製造量 ■産業廃棄物発生量

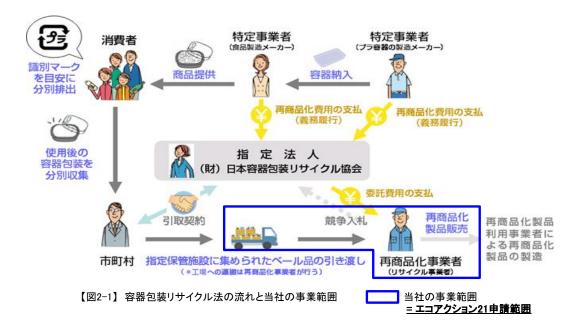


注1) 再生処理を行い、製造したペレットの量を指す。

2.2プラスチック製容器包装リサイクル事業

1) 容器包装リサイクル法と当社事業の位置づけ

容器包装リサイクル法は、家庭から出るごみの約6割(容積比)を占める容器包装廃棄物のリサイクル制度を構築することにより、一般廃棄物の減量と、資源の有効活用の確保を図る目的で、1995年に制定されました。容器包装りサイクル法では、容器包装の製造事業者と利用事業者が、リサイクルをする義務(再商品化義務)を負っており、これらの事業者を特定事業者と呼びます。特定事業者は、自社でリサイクルを行い、この義務を履行する以外に、指定法人((財)容器包装リサイクル協会)へ再商品化費用(リサイクル費用)の支払いをし、リサイクルを委託することが出来ます。委託された場合、指定法人は、特定事業者、自治体、及び容器包装リサイクル業者の間を取り持ち、自治体で回収された容器包装がリサイクル業者に渡り、リサイクルが行われるよう取り計らいます。当社の「容器包装リサイクル事業」は、このように容器包装リサイクル法の社会的受け皿として機能しています。



2) 事業の許可等について

容器包装リサイクル法では、一般廃棄物処理業、産業廃棄物処理業、収集運搬業の許可は必要なく、当社は一般廃棄物処理施設設置許可を取得しております。

また、当社は2020年5月に産業廃棄物処理業の許可を取得いたしました。

【表2-1】一般廃棄物処理施設設置許可

許可の年月日	2006年12月15日	許可番号	環廃第47号の6					
施設の種類	政令第5条第1項 ごみ処理施設(選別∙破砕∙∶	溶融施設)					
一般廃棄物の種類	プラスチック類							
設置場所	菊川市三沢字北ノ谷1500番177	他8筆						
処理能力	120.0 t/24時間							

【表2-2】産業廃棄物処理施設設置許可

許可の年月日	2019年10月18日	許可番号	静岡県	第 100110294 号
施設の種類	政令第7条第7項 破砕施設			
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類			
設置場所	静岡県菊川市三沢字北ノ谷1500	番177		
処理能力	134.40 t/24時間			

【表2-3】産業廃棄物処分業許可

27-12 (25)								
許可の年月日	2020年 5月 29日	許可番号	静岡県 第 02221215343 号					
事業の範囲	中間処分(破砕処分、溶融固化処分、造粒固化処分)							
施設種類	造粒固化施設							
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類							
設置場所	静岡県菊川市三沢字北ノ谷1500	番177						
to TM -L v.L	4時間、31.2t/24時間、3.6t/24時間							
処理方法 最大処理能力	溶融固化:7.2t/24時間							
	造粒固化:20.4t/24時間、20.4 t/24時間、20.4t/24時間							

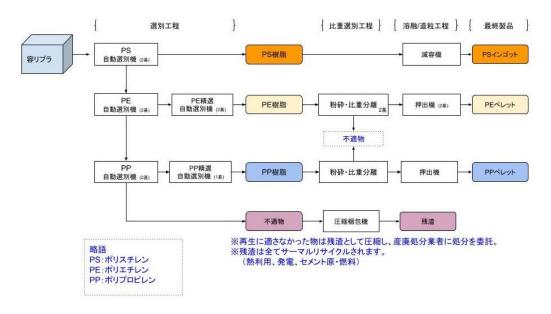
3) 再商品化製品の販売

当社で製造された再生ペレットは、園芸・農業資材、物流資材、建築資材等に幅広く利用されています。 再生製品例: プランター、梱包用パレット、雨水貯留槽、ウッドデッキ

4) リサイクル工程

当社では、図2.2に示すリサイクル工程を経て、PE(ポリエチレン)と、PP(ポリプロピレン)をペレットに、PS(ポリスチレン)をインゴットに加工しています。

【図2-2】リサイクル処理フロー



3. エコアクション21の適用範囲

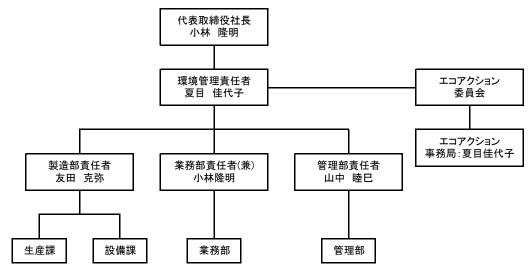
1) 認証・登録の範囲

全組織・全活動を対象とする。 本社工場所在地 静岡県菊川市三沢1500番地177 (本社工場以外に工場、事業所はございません)

2) 環境経営レポートの対象期間及び発行日

活動期間は2022年4月~2023年3月で、発行日は2023年7月25日です。

4. 環境経営システムの運営体制



【図4-1】 環境経営システムの運営体制

【表4-1】 環境経営システムの運営体制

職名	役 割
	〇 環境管理責任者及びその他の責任者を任命する。
	〇 環境経営方針の策定と見直しを行う。
	〇 エコアクション21委員会の開催を決定する。
代表取締役社長	〇 経営における課題とチャンスの明確化
	〇 環境経営に必要な資源(費用、設備、人員等)を確保し、提供する。
	〇 EA21の総合評価と方針の見直しを行う。
	〇 関係法令遵守に関し、責任を持つ。
	○ エコアクション21に係る事項の決定及び報告の場所である、エコアクション
 環境管理責任者	委員会の運営を行う。
環境管理員 位 有	〇 エコアクション21の構築に向けて、製造部、業務部、管理部、エコアクション
	事務局を指揮し、エコアクション21に係る全ての事項を総括する。
	○ エコアクション21に係る事項の報告及び決定の場とする。
エコアクション委員会	〇 代表取締役社長、環境管理責任者、製造部長、総務課長及びエコアクション
エコアソンコン安良云	事務局で構成し、3ヶ月に1回環境管理責任者が召集する。なお、環境管理
	責任者が必要と判断した者に関しては、出席することが可能とする。
エコアクション事務局	○ 事務局として環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に係る事項の実務を
エコノノノコン争伤问	中心的に行う。
部門長	○ エコアクション委員会での決定事項に基づき、部門の総括をする。

5. 環境経営目標とその実績・評価

5.1 生産活動における環境負荷の概要

インプット

エネルギー使用量

10,248.2 MWh ● 電力

LPG 18.5 t

● 灯油 22.1 ℓ

水使用量

52,370m

OA用紙使用量

78.2千枚

18,125t

容器包装

*)PRTR制度対象物質の使用はありません。



アウトプット

エネルギー使用量

一般廃棄物排出

■産業廃棄物排出

■再生ペレット

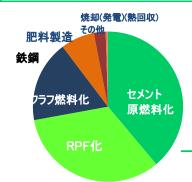
4,743t-CO2

916.7kg

8,909t

9,392t

■排出 産業廃棄物のリサイクル率



処分方法	重量 ton	比率	主な利用効率
セメント原燃料化	2,867	32.20%	
フラフ燃料化	2,450	27.52%	ホ・イラー効率 90.6% エネルキ・−利用率 107.6%
RPF化	1,531	17.20%	発電用途 発電効率 27%
鉄鋼副資材化	1,295	14.54%	
肥料製造	537	6.03%	
焼却(熱回収)	187	2.10%	
再資源化	29	0.33%	
焼却(発電)	7	0.08%	
승計	8 904		<u> </u>

8,904 *) 廃プラスチックのリサイクル率100%。

リサイクル率 100%

■再生ペレット生産によるCO2削減効果

廃プラスチックの単純焼却回避によるCO2削減効果

(再生樹脂生産量(PP·PE,PS) x プラスチック焼却時CO2炭素排出係数(2,765kg-CO2/t))

9,392 t \times 2,765 kg-CO2/t = **25,968,880** (kg-CO2)

⇒当社事業の寄与する容器包装リサイクル事業によるCO2削減効果

25.968.880 (kg-CO2) -

(kg-CO2) = 4.742.621

21,226,259

(kg-CO2)

↑ 当社事業活動による排出CO2

*)産業廃棄物の 100% リサイクル化による効果は含まず。

21,226,259 (kg-CO2) ÷ 家庭からのCO2排出量 5,093 (kg-CO2/世帯) ≒ 4,168 世帯

~マイナスエミッション~

家庭 4,168世帯分の排出CO2の削減に貢献*)

2021年度実績: 4,693世帯分 2020年度実績:4,496世帯分 2019年度実績:3,888世帯分

*) 温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン(H27 環境省)に基づく試算

5.2 環境負荷に対する目標

環境負荷の削減目標を設定するに当たり、購入電力、LPG、CO2排出量及び上水使用量に関しては、生産量当たりの値を基準値に設定しております。

【表5-1】環境負荷の実績と数値目標取りまとめ

【表5-1】 環境負荷の実績と数値目標取りまとめ								
環境目標	環境負荷	基準値	目標					
垛·况口 馀	目標項目	単位	本牛胆	2020年度	2021年度	2022年度		
	購入電力	kwh/ t	1,100	5.5%削減	5.5%削減	5.5%削減		
* 42	胂八电 刀	KWII/ t	1,100	1,040	1,040	1,040		
	LPG	lzer/t	kg/t 2.95		6.0%削減	6.0%削減		
1.省エネ/CO2排出量の削減	LIG	Kg/t	2.30	2.79	2.77	2.77		
の推進	灯油	Ω/t.	2.95	2.0%削減		2.0%削減		
	77 16	-676	2.00	2.89	2.89	2.89		
	CO2排出量	kg-CO2/t	515	5.5%削減	5.5%削減	5.5%削減		
	0027年山里	kg CO2/t	515	486.7	486.7	486.7		
2.省資源の推進	上水	m2/+	m3/ t 6.50	5.5%削減	5.5%削減	5.5%削減		
	工水	1115/ t		6.14	6.14	6.14		
	コピー用紙	枚/月 8,000	4.5%削減		4.5%削減			
	- 2 /11/15Q	权/月 8,00			7,640.00			
3.一般廃棄物搬出量の削減	一般廃棄物搬出量 kg/	kg/月	100	9.0%削減	9.0%削減	9.0%削減		
5. 似光来彻顶山重沙的枫		Kg/71	100	91.00	91.00	91.00		
	再資源化等率(歩留まり)	-	50.0%	4.5%向上	4.5%向上	4.5%向上		
4.廃棄物搬出量の削減/リサ	=(製品生産量/再商品化受託量)		50.070	52.3%	52.3%	52.3%		
イクルの推進	廃棄物発生率	_	52.1%	3.6%削減	3.6%削減	3.6%削減		
	=(廃棄物発生量/再商品化受託量)		92.170	50.2%	50.2%	50.2%		
5.化学物質の使用量の削減	排水処理凝集剤	ka/t	11.00	3.0%削減	3.5%削減	3.5%削減		
(生産量あたり使用量)	757八亿华灰木州	kg/t 11.00		10.67	10.62	10.62		
6.製品の環境負荷を測定す る。	成分分析の実施	実施回数	1回/年	2回/年	2回/年	2回/年		

- ■各項目の数値目標の計算根拠は 年間の総量÷年間製品製造 としています。 ただし、4.および6.については目標項目欄に記載のとおりです。
- ■2020年度を、新たな中期計画の初年度として目標設定値を設定しています。 CO2排出量については前年度(2019年度)の実績値を報告年度の排出係数で計算した値をもとに基準値を 設定しました。
- *1) 再商品化を受託したプラスチックベール内の水分量の多寡、乾燥過程での水分の蒸発や、比重分離・洗浄粉砕工程での水の使用があるため、必ずしも再資源化率と廃棄物発生率の和が100%にけなられる。
- 用があるため、必ずしも再資源化率と廃棄物発生率の和が100%にはならない。 *2) 排水処理凝集剤はPRTR法対象外であるが自主管理することとした。
- *3) CO2排出係数は、中部電力 0.000452(t-CO2/kwh)とした。【2019年度算定用 調整後排出係数】

5.3 目標達成のための環境経営方針と取組状況の評価

環境経営方針に対する取組結果を表5-2に示します。30全項目を概ね計画通りに実行することが出来ました。

【表5-2】 環境負荷への取組状況の評価

2023年7月25日評価

環境経営方針	取組内容	責任者	評	平価			
	生産性の向上	設備課長	0	予防保全を推進し、原因と対策を定期 的に監視している			
	造粒機の適正運転	生産課長	0	運転状況を記録し適切に運用されてい ることを確認している			
	設備運転停止時における電源オフ	生産課長	0	実行されている			
①省エネルギー推 進による二酸化炭 素排出量の削減	省エネ設備への更新	製造部長	0	フォークリフトの蓄電式への変更とリチ ウムイオンバッテリーの導入を開始			
素排出量の削減	収集運搬によるエネルギー使用量の削減	業務部長	Δ	収集エリアは静岡県中心に計画した が、受託計画の都合上県外が増えた			
	エアコンの使用管理・温度管理	管理部長	0	実行されている			
	フォークリフトのアイドリングストップ	生産課長	0	実行されている			
②用水使用量の削 減などによる省資源	再利用水の積極的な利用	設備課長	0	実行されている			
の推進	水道配管からの漏洩の定期点検	設備課長	0	実行されている			
③一般廃棄物搬出	ペーパーレス化	管理部長	0	裏紙使用、電子マニフェスト、共有ドラ イブの運用が進んだことにより、目標 値の達成を実現できた			
量の把握、及び削減	シュレッダー使用の制限	管理部長	0	機密書類の処理が適正に実行されて いるが、排出量は増加傾向			
	ごみの分別の徹底	管理部長	0	実行されている			
01111 /5 11 ± ± 1	リサイクル率の向上	製造部長	Δ	目標に対しては未達であるが、リサイ クル率の向上は実現できている			
④リサイクル率向上 による産業廃棄物 量の削減	産業廃棄物処理委託先の適正管理	業務部長	0	処理委託先の視察はコロナ禍により見送っているが定常的なコミュニケーションにより適正に管理されていることが確認されている			
	環境関連法規の遵守	管理部長	0	関連法令を遵守していることが確認さ れている			
	防音設備の設置及び日常的な測定・監視	設備課長	0	定期的な測定を通し問題が無いことが 確認されている			
⑤環境保全体制の	化学薬品使用量の削減	設備課長	0	添加率の適正化を図り、使用量は大き く削減した			
確立	再生ペレットの成分分析の実施	業務部長	0	実行されている			
	環境経営システム実行における体制の構築	代表取締役	0	予定通り、委員会が開催された			
	従業員に対する環境教育	管理部長	0	近隣のゴミ拾いも定期的に実施し、また教育も行われた			
	環境イベントでの情報発信	業務部長	0	地域環境イベントに協賛し、社内外に 該当イベントをアピールした			
⑥地域の環境啓蒙 活動への貢献	施設見学の積極的な受入	管理部長	0	コロナ対策で一時的な中止を実施 代替えとしてHPにバーチャルツアーを 公開している			
	ホームページの継続的な更新	管理部長	0	環境活動レポートの作成、ホームペー ジの更新は適宜行われていた			
	問い合わせ体制の構築	管理部長	0	実行されている			

環境コミュニケーション

ふじのくにCOOLチャレンジへの協賛



コロナ禍の中での工場見学への対応



ゴミ拾い活動





5.4 目標に対する実績と評価

2022年度の目標、実績及びその評価を表5-3に示し、各項目の評価を下記に示します。

【表5-3】 運田期間の環接負荷数値日煙とその宝績・評価

2022年7日25日証価

【衣5-3】 連用期间の環境負何数個日標とての美積・計画					20	20牛/月2	
環境経営目標	【環境負荷		基準値	前年実績	2022	評価	
煤块胜当口保	目標項目	単位	二十四	(参考)	目標	実績	77 IW
	購入電力	kwh/ t	1,100	1,055	5.5%削減	-5.0%達成	Δ
	APP VIED I	KWID 0	1,100	1,000	1,040	1,091	1
• 44 - NGO o MULLE o WIVA	LPG	kg/t	2.95	1.97		29.0%達成	0
1.省エネ/CO2排出量の削減 の推進					2.77	1.97	
のが住地	灯油	kg/t	2.95	2.98	2.0%削減 2.89	2.35	0
					5.5%削減		
	CO2排出量	kg-CO2/t	515 490	487	499	Δ	
	1 -10	0/ /	0.50	6.50 5.42	5.5%削減	9.2%達成	0
2.省資源の推進	上水	m3/ t	3/ t 6.50		6.14	5.58	0
2.11 頁係の推進	コピー用紙	枚/月	8000	6,376	4.5%削減	14.7%達成	0
	- C /11/184	12//1	0000	0,010	7,640	6,516)
3.一般廃棄物搬出量の削減	一般廃棄物搬出量	kg/月	100	85	9.0%削減	16.1%達成	0
					91	76	
	再資源化等率(歩留まり)	-	50.0%	49.8%	4.5%向上	-0.8%達成	\triangle
4.廃棄物搬出量の削減/リサイ					52.3% 3.6%削減	51.8%	
クルの推進	廃棄物発生率 =(廃棄物発生量/再商品化受託量)	-	52.1%	50.6%	50.2%	2.1%達成 49.2%	0
■ 11. 坐址 65. ○ 仕田目 ○ 201. 辻	- (廃棄物完生重/ 丹間即仁文託重)						
5.化学物質の使用量の削減 (生産量あたり使用量)	排水処理凝集剤	kg/t	11.00	7,132.81	3.5%削減		0
(生)生星のたり使用里)					10.62	6.74	
6.製品の環境負荷を測定する	成分分析の実施	実施回数	1回/年	2回/年	2回/年	3回/年	0
						5四/十	

[※]目標値に対して達成: ○、~-20%: △、-21%を超える: ×とする

1) 省エネ/CO2排出量の削減の推進

LPGおよび灯油の削減目標は大きく達成できたものの、電力消費量・CO2排出量は共に目標を達成できませんでし た。昨年比でも数値を落す結果となっております。本年度は前2年度に比べて落札量が減少した為、少なくなった受託 量から歩留まりを確保するために時間当たりの投入量が減少したことが、大きな要因と考えております。

LPGの削減についてはかねてより検討していた、蓄電式フォークリフトへの移行に着手したことが結果としてあらわれ たものと受け止めております。

来期以降も従来からの取り組みであるラインの安定稼動の実施継続を図るとともに、設備の効率稼働や、省エネ設 備への置換えなどの検討を実施して、次年度の購入電力、CO2排出量の目標達成を目指して参りたいと思います。

2) 省資源の推進

洗浄工程の使用水の適正化や、毎勤務における上水の使用量を確認し無駄を減らすべく、継続して活動しておりま

す。その結果が、目標達成に繋がったものと総括します。 コピー用紙の使用量も同様に、ディスプレイ使用による社内会議のペーパーレスなどの各種取り組みが目標達成に 繋がったものと考えます。引き続き、それぞれの取り組みを積極的に実施し、来年度も目標達成を目指して参ります。

3) 一般廃棄物搬出量の削減

- 般廃棄物排出量も、前期から継続しての目標達成となりました。各種の分別の徹底の定着化によるものと考えま す。引き続き分別ルールの徹底を継続し、排出量削減に取り組んで参ります。

4) 廃棄物搬出量の削減/リサイクルの推進

廃棄物発生率については、目標を達成することができました。リサイクルの推進についていは目標は未達ながらも、 前年比、再資源化率、ともに改善しております。

来期は、リサイクル工程の最適化を継続して検討し、目標達成を目指して、事業を推進して参ります。

5) 化学物質使用量の削減

グループ会社の専門部隊に水処理業務を委託することで、凝集剤等の適正使用・運転管理の最適化により目標を達 成しました。水処理施設全般の継続的なメンテナンスにも留意し、引き続き化学物質の使用量削減に努めてまいりま

6) 製品の環境負荷の測定

前年に続きるRoHS分析の実施を継続することにあわせ、本年度はREACH物質分析も実施し、合計3回の環境負荷の 測定を行いました。これら分析結果から、製品の環境負荷は問題無いことを確認しております。TSCA PBT規制5物質 分析の実施実績にも対応し、客先の各種要求に常に対応できる体制を整えております。

6. 環境関連法規の遵守状況

定期的に遵守状況の確認を行い、特に問題はないことを確認しております。

た知的に受すればの確認を行い、特に问題はないことを確認してあります。 その他では、環境関連法規への違反、訴訟はありませんでした。また、関係当局による違反等の指摘に関しては、操業以来ありませんでした。 環境関連法規の遵守状況のまとめを、表6-1に示します。

【表6-1】 環境関連法規の遵守状況

2023年7月25日時点

No	1) 環境関連法規の遵守状況 法律・条令	法的な要求事項	遵守	2023年7月25日時点 評価記録
140	丛伴"木巾		合否	内容
		一般廃棄物施設設置許可 産業廃棄物施設設置許可	0	許可証あり
		産業廃棄物処分業許可	0	許可証あり
		一般廃棄物処理施設維持管理基準 産業廃棄物処理施設維持管理基準	0	基準を満たしている
1	廃棄物の処理及び清掃に関	保管場所における適正保管と掲示板の設置	0	掲示板あり
	する法律	マニフェストの交付と管理	0	マニフェスト伝票回収 あり
		マニフェスト交付状況報告書	0	報告済み
		産業廃棄物多量排出者の処理計画届出	0	届出済み
		産業廃棄物多量排出者の処理実施状況報告	0	報告済み
	容器包装に係る分別収集及 び再商品化の促進等に関す る法律	処理の委託契約	0	違反なし
	振動規制法 (菊川市公害防止協定)	特定施設設置の届出(残渣用圧縮梱包機(1機))	0	設置の受理書
4	騒音規制法 (菊川市公害防止協定)	特定施設設置の届出(ブロワー(2機)、角シューター 付ブロアー(2機)、エアーコンプレッサー(1機))		設置の受理書
	水質汚濁防止法 悪臭防止法	水質基準 ・悪臭基準	0	菊川市公害防止協定 15未満
6	菊川市公害防止協定	・水質基準(水質汚濁防止法に準拠)・毎月の測定	0	PH:5.8~8.6 BOD:20mg/I以下 SS:40mg/I以下 有害物質:水道及び農 水産動植物に支障をき たさない 概観及び臭気:放流先 で色・臭気において支 障をきたさない ※毎月、ホームページ
		・騒音基準(騒音規制法に準拠) ・年1回の騒音測定	0	昼間8時~18時:70dB 朝6時~8時 夕18時~22時:65dB 夜間22時~6時:60dB 8時~20時:70dB
		・振動基準(振動規制法に準拠)	0	20時~翌日8時:65dB
7	静岡県生活環境の保全に関 する条例	騒音に係る施設設置(使用)の届出(集塵装置、クーリングタワー)	0	設置(使用)許可の受理 書
8	毒物及び劇物取締法	毒物または劇物の取扱(盗難の防止等) 毒物又は劇物の容器、被包への表示義務	0	実施実施
9	フロン排出抑制法	簡易点検の実施(4回/年) 定期検の実施(1回/3年)	0	実施実施
	消防法	指定可燃物取扱い届出 定期点検の実施	0	届出 実施
	電気事業法	毎月の点検	0	実施
	都市計画法建築基準法	建築基準法第51条ただし書き許可事前協議書 ・建築基準法第51条ただし書き許可の取得 ・建築基準法第6条第1項 確認済証・検査済証の取得	0	_
	計量法	・2年に1回の測定	0	実施
15	静岡県産業廃棄物の適正な 処理に関する条例	・第8条 産業廃棄物管理責任者の設置 ・第10条 年1回以上 産業廃棄物処理委託先の	0	現地確認票

7. 代表者による総合評価と見直し

<総合評価>

今年度は、入札環境の変化に対応出来ずに落札量を大幅に減らすという環境での事業活動となっております。

その為、受入量単位での購入電力を始めとする環境負荷数値は目標には届かなったものの前年度実績と比較して大きな悪化とならなかった点は評価も出来るかと考えます。

しかしながら、昨年度より継続して目標未達項目が多いことは事実であり、確実にライン安定稼動の実施継続を図るとともに、設備の効率稼働、省エネ設備への置換えなどを検討し、次年度以降のCO2排出量に確実に結び付けていかなくてはならないと思います。

今後も入札環境を始めとする外部環境の変化に応じて各自が自主的に対応できる組織へと成長していけるよう継続的な取組みを実施して参ります。

<環境経営方針、目標の見直しについて>

環境経営方針に関しては、当社のエコアクション21の根幹に係るところであり、取得後も事業方針の変更 等は生じていないことから、見直しは行いません。

環境負荷に対する目標設定は、2020年~2022年の3か年を区切りとし、次回は2023年~2025年の3か年計画の策定において見直しを行うこととします。

新たな目標達成に向け継続的な各環境活動を実施して参ります。

2023年 7月 25日 株式会社グリーンループ 代表取締役 小林 隆明

8. 次年度の取組内容

次年度の取組内容を表8-1に示します。

【表8-1】 次年度取組内容

環境経営方針	取組内容	責任者	具体的アクション
	生産性の向上	設備課長	〇トラブル停止設備・時間・要因の把握 〇監視機器の導入による予防保全の推進
①省エネルギー推進による二酸化炭	造粒機の適正運転	生産課長	○運転管理記録と適正運転の水平展開 ○不適合対策の標準化
	設備運転停止時における電源オフ	生産課長	〇故障停止など長時間停止が見込まれる場合 の単独停止の推進
	省エネ設備への更新	製造部長	○フォークリフトの蓄電式転換 ○太陽光発電設備の導入
素排出量の削減	収集運搬によるエネルギー使用量の 削減	業務部長	○運搬地の近地化の推進 ○往復積載の推進
	エアコンの使用管理・温度管理	管理部長	○エアコン使用ルールの掲示○クールビズなど冷涼な装いの検討
	最大需要電力の削減	生産課長	〇設備立上げ手順の検討
	フォークリフトによるアイドリングストップ	生産課長	○アイドリングストップの掲示・周知徹底
②用水使用量の削 減などによる省資源	再利用水の積極的な利用	設備課長	○水処理施設の適正な運転 ○上水・再利用水使用量の把握、可能な限り上 水使用の削減
の推進	水道配管からの漏洩の定期点検	設備課長	〇水処理関連の定期作業化
③一般廃棄物搬出 用の把握、及び削 減	ペーパーレス化	管理部長	〇裏紙使用、会議資料のペーパーレス化の推進
	シュレッダーの使用を制限	管理部長	〇シュレッダー使用ルールの掲示
	ごみの分別の徹底	管理部長	
④リサイクル率向上 等による、産業廃棄	リサイクル率の向上	製造部長	〇ベール特性に合わせた選別設定の見極め 〇自動選別機のチューンナップ
物搬出量の削減	産業廃棄物処理委託先の適正管理	業務部長	○処理方法ほか適切な委託先との提携○委託先の現地確認
	環境関連法規等の遵守状況	管理部長	○法規制の最新情報の月例入手○法規制の遵守状況の月例確認実施
	防音設備の設置及び日常的な測定・ 監視	設備課長	○工場内の騒音測定の定常化○敷地境界線での騒音測定○敷地境界線での臭気測定
⑤環境保全体制の 確立	化学薬品使用量の削減	設備課長	○薬剤使用量の把握と適正使用量の見極め ○設備の稼働状況の管理 ○排水処理施設の管理委託による維持管理レベルの向上
	再生ペレットの成分分析の実施	業務部長	〇成分分析の定例実施
	環境経営システム実行における体制 の構築	代表取締役	OEA21委員会の定期開催
	従業員に対する環境教育	管理部長	〇年に1回の環境教育の実施
	環境イベントでの情報発信	業務部長	〇地域環境イベントへの協賛・参画 〇より判り易いコンテンツ充実
⑥地域の環境啓蒙	施設見学の積極的な受入	管理部長	○見学受入発信の多手段化 ○見学内容の充実
活動への貢献	ホームページの継続的な更新	管理部長	○質・スピードの充実
	問い合わせ対応手順の確立	管理部長	○問合せ応対履歴表の作成 (一元管理・共有化)○迅速・正確な問い合わせ対応の実現

2023年度~2025年度:環境負荷に対する目標設定

- ■前年度(2022年)実績を目安に、前3か年の実績を加味して基準値を設定し、基準値を元に目標設定を行いました。
- ■CO2排出量については前年度(2019年度)の実績値を報告年度の排出係数で計算した値をもとに基準値を 設定しました。
- ■各項目の数値目標の計算根拠は 年間の総量÷年間製品製造 としています。 ただし、4.および6.については目標項目欄に記載のとおりです。

環境目標	環境負荷	基準値	目標			
垛况口馀	目標項目	単位	李华旭	2023年度	2024年度	2025年度
1.省エネ/CO2排出量の削減 の推進	購入電力	kwh/ t	1.100	5.0%削減	5.0%削減	5.2%削減
	無八电 刀	KWII/ t	1,100	0	0	0
	LPG	kg/t	2.25	5.5%削減	6.0%削減	6.5%削減
	LFG	Kg/t	2.20	0.00	0.00	0.00
	灯油	Ω/t.	2.95	2.0%削減	2.0%削減	2.0%削減
	71 HI	£/τ	2.55	0.00	0.00	0.00
	CO2排出量	kg-CO2/t	500	1.0%削減	2.0%削減	3.0%削減
	0029年山里	kg-CO2/t	300	0	0	0
2.省資源の推進	上水	m3/ t	6.00	5.5%削減	5.5%削減	6.0%削減
	上八 ma.	m3/ t		0.00	0.00	0.00
	コピー用紙	枚/月	7,000	4.5%削減	5.0%削減	5.5%削減
	二二一/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	似历	7,000	0	0	0
3.一般廃棄物搬出量の削減	一般廃棄物搬出量	kg/月	100	9.0%削減	9.5%削減	9.5%削減
3. 似宪来彻城山重沙削城		Kg/ 月	100	0	0	0
	再資源化等率(歩留まり)	_	50.2%	1.5%向上	2.0%向上	2.5%向上
4.廃棄物搬出量の削減/リサ	=(製品生産量/再商品化受託量)	_	30.270	0.0%	0.0%	0.0%
イクルの推進	廃棄物発生率		50.4%	1.5%削減	2.0%削減	2.5%削減
	=(廃棄物発生量/再商品化受託量)	_	50.4%	0.0%	0.0%	0.0%
5.化学物質の使用量の削減	サル加田安佐如	1/4	7.50	3.0%削減	3.5%削減	3.5%削減
(生産量あたり使用量)	排水処理凝集剤	kg/t	7.50	0.00	0.00	0.00
6.製品の環境負荷を測定す る。	成分分析の実施	実施回数	1 回/年	2回/年	2回/年	2回/年